

政策体系	基本目標名	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	施策主管課長	文化財課
	政策名	03	歴史・文化を守り育てるまちづくり		
	施策名	02	歴史・文化資源の保存と継承		
施策関係課	文化推進課			船渡川 貴史	

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的「対象」	この施策は、誰、何を対象としているか ①佐野市に存在する文化財 ②市民	対象指標				単位	R4	R5	R6	R7	成果指標設定の考え方	
		①	②	③	④		269	-	-	-		
施策の目的「意図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか ①文化財が適切に保存・継承される。 ②市民が歴史・文化資源について学び、継承していく。	成果指標(意図の達成度を表す指標)				区分	単位	R4	R5	R6	R7	成果指標の取得方法
		①	②	③	④			275	276	277	278	
		①	適切に保存・継承されている指定等文化財件数(累計)	目標	件		269	-	-	-	①文化財課資料	
		②	指定文化財維持管理・保存修復件数	実績	件		46	46	47	47	②文化財課資料	
		③		目標							③	
		④		実績							④	

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7
歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承	①歴史・文化資源 ②文化財所有者	①歴史・文化資源を掘り起す。 ②歴史・文化資源を適切に保存し継承する。	① 新規指定・登録文化財件数	目標	件	6	6	7	7	歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進	①市民 ②児童生徒	①②歴史・文化資源について学び理解する。 ①②歴史・文化資源を継承し郷土を育む人材を育成する。	① 博物館、化石館、伝承館の入館者数	目標	人	55,500	56,000	56,500	57,000
			② 指定文化財維持管理・保存修復件数	実績	件	1	-	-	-				② 学校利用(出前講座含む)実績	目標	人	4,100	4,150	4,200	4,250
			③	目標									③ ボランティア養成講座等の活動件数	実績	件	4,086	-	-	-
			④	実績									④	目標		470	480	490	500

3. 施策及び基本事業の目標達成度評価

施策	令和4年度施策の取組方針		取組方針		成果指標		施策の取組方針・成果指標達成状況	
	<ul style="list-style-type: none"> 唐沢山城跡二の丸における緊急を要する石垣整備を進める。 歴史・文化資源の継承に係るボランティアなど人材の確保を図る。 唐沢山城跡ガイダンス施設整備に向けた検討を進めるとともに、石垣整備等に関する情報を発信する。 唐沢山城跡事業の進捗に応じて「(仮称)歴史文化基本構想」策定を検討する。 天明鋳物生産用具の国指定重要有形民俗文化財を目指した取組を推進する。 歴史・文化の理解を図るため、各種企画展や講演会等の実施により、郷土博物館、葛生化石館、葛生伝承館の利用を促進する。 郷土の歴史・文化資源に対する理解を図るため、郷土博物館について小学校の学校利用を促すととも小中学校への出前講座を実施する。 郷土博物館の企画運営について、指定管理の検討を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> 唐沢山城跡二の丸における緊急を要する石垣整備を進める。 歴史・文化資源の継承に係るボランティアなど人材の確保を図る。 唐沢山城跡ガイダンス施設整備に向けた検討を進めるとともに、石垣整備等に関する情報を発信する。 唐沢山城跡事業の進捗に応じて「(仮称)歴史文化基本構想」策定を検討する。 天明鋳物生産用具の国指定重要有形民俗文化財を目指した取組を推進する。 歴史・文化の理解を図るため、各種企画展や講演会等の実施により、郷土博物館、葛生化石館、葛生伝承館の利用を促進する。 郷土の歴史・文化資源に対する理解を図るため、郷土博物館について小学校の学校利用を促すととも小中学校への出前講座を実施する。 郷土博物館の企画運営について、指定管理の検討を開始する。 	<input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成	<input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input checked="" type="checkbox"/> 全て未達成	【施策の取組方針達成状況】 ・繰越となっていた唐沢山城本丸の石垣積み直し工事を完了させることを優先せざるを得ず、二の丸の整備については、令和5年度から石垣カルテ等の作成を進め整備方針を検討していくこととし、唐沢山ガイダンス施設整備については、具体的な検討を進められなかった。 ・天明鋳物生産用具の国指定化については、文化庁調査官の現地指導を受け、必要な提出資料の確認等を行ったほか、課題となっていた保管場所について県立博物館に預ける調整を行った。 ・「(仮称)歴史文化基本構想」の策定の具体的な検討を進められなかった。 ・郷土博物館等は、計画どおりに企画展・講演会の開催と学校利用・出前講座を実施した。 ・郷土博物館の指定管理について手続きを進め、令和5年度からの導入が決定した。	【成果指標達成状況】 ・適切に保存・継承されている指定等文化財件数は、目標を下回った。 ・歴史・文化資源関連のボランティア養成講座やボランティア活動参加人数は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標を大幅に下回った。		

基本事業	基本事業名	令和4年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況	基本事業名	令和4年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況
	歴史・文化資源の調査と適切な保存・継承	唐沢山城跡二の丸における緊急性の高い石垣の保存対策を実施するため発掘調査や実施設計などを行う。 唐沢山城跡ガイダンス施設(ビジターセンター)の設置計画を推進するとともに、発掘調査や石垣整備の状況に関する情報を発信する。 天明鋳物生産用具の国指定化を目指した年次計画を策定する。 遺跡地図の作成を進める。	取組方針 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成 成果指標 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成	【基本事業の取組方針達成状況】 ・繰越となっていた唐沢山城本丸の石垣積み直し工事を優先せざるを得ず、二の丸の整備については、令和5年度から石垣カルテ等の作成を進め整備方針を検討していくこととし、ガイダンス施設整備については、具体的な検討を進められなかった。 ・天明鋳物生産用具の国指定化については、文化庁調査官の現地指導等も参考にしながら、年次計画の時点修正を行った。 ・遺跡地図は年次計画に基づき旧田沼町の現地調査に着手した。 【成果指標達成状況】 ・新規指定・登録件数は目標を下回った。(唐澤山神社本殿外5件の国登録有形文化財登録について文化審議会の答申まで進んだが、年度内に官報告示まで進まなかった。) ・指定文化財の維持管理・保存修復等対策件数は目標を上回った。	郷土博物館、葛生化石館、葛生伝承館での企画展や各種講座の充実により入館者数の増加を図る。 郷土博物館での小学校の学校利用を促し、郷土の歴史に対する理解を促進させる。 歴史文化資源の継承に係るボランティアを育成するとともに活動の支援をすることで、歴史文化資源の継承に係わる人材を拡充させ活動の充実を図る。 郷土博物館の企画運営について、指定管理の検討を進める。	取組方針 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成 成果指標 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等	施策の成果向上に向けての役割分担		
	<ul style="list-style-type: none"> 唐沢山城跡における史跡整備に関係し、環境整備、遊歩道整備、案内板の設置、ガイダンス施設の設置、根小屋での史跡公園整備等の要望あり。(市議会、地元町会、市民等) 山城サミット佐野大会を一過性とせず、本市の歴史遺産の掘り起こしやPRの要望あり。(市議会) 唐沢山城跡整備事業に関係し、専門職員を配置するよう強い指導あり。(文化庁、県) 指定文化財等の保存修復、災害時対応、管理費助成制度の要望あり。(市議会、所有者) 天明鋳物生産用具を国の重要有形民俗文化財に指定させる支援要望あり。(市議会、市民団体) 文化芸術活動の振興を図る公益財団法人佐野市文化振興事業団との連携、協力が求められている。(社会情勢変化) 	市民	事業所	行政
		<ul style="list-style-type: none"> 郷土の歴史・文化資源に対して関心を寄せ、理解を深める。 郷土の歴史・文化資源の保存や継承に努める。 郷土の歴史・文化資源の活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の歴史・文化資源に対して関心を寄せ、理解を深める。 郷土の歴史・文化資源の保存や継承に対する支援を行う。 郷土の歴史・文化資源の活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化資源の適正な保存・継承のため、調査研究を行う。 歴史・文化資源の理解促進のため、有効な情報発信をするとともに、施設が所蔵する収蔵品の公開に努める。 歴史・文化資源の保存、継承に係る支援を行う。 歴史・文化資源の保存、継承に係る人材等の育成、確保、支援を行う。

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 唐沢山城跡の石垣整備は、国や指導委員会の指導・助言を受けながら進めているが、織豊系城郭の石垣整備は近隣自治体に取り組み事例もなく、手続きや調査・工事手法等の検討に多くの時間を要し、計画的な進捗が難しい状況にある。 整備を進めるうえで専門的な職員が必要であるため、昨年度に実施した職員採用試験で埋蔵文化財専門職1名を採用した。 ガイダンス施設(ビジターセンター)の設置計画は、関連部署と調整を図りながら検討を進める必要がある。そのため、当面、唐沢山城跡にかかる情報発信についてはほかの方法で行う。 郷土博物館、葛生化石館、葛生伝承館での利用者増を図る取り組みでは、新型コロナウイルス感染症の状況も見ながら計画どおりの企画展や講演会も開催したところ、入館者数は目標には若干届かなかったが、概ねコロナ前の水準に戻ってきた。 令和5年度の天明鋳物生産用具の国重要有形民俗文化財指定化に向けて、指定資料の「調査カード」等の作成を進めたほか、文化庁調査官の現地指導を受け提出資料の確認等を行った。また、課題とされていた資料の保管場所として、県立博物館に委託する調整ができたが、県立博物館での収蔵は暫定措置であるため、将来的な保管場所について展示・活用計画と併せて検討しておく必要がある。 旧田沼・旧葛生町域は遺跡地図が刊行されておらず、埋蔵文化財包蔵地が不明確な状況のため、埋蔵文化財の損壊防止のために市域全体の遺跡地図を作成する必要がある。 【施策コスト】 施策全体の令和4年度決算額は、令和3年度比24,876千円増の58,081千円だった。主な要因は令和3年度から令和4年度に繰り越した唐沢山城跡保存整備事業の14,007千円の執行によるものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 【令和5年度で解決する課題】 天明鋳物生産用具の国重要有形民俗文化財指定化【令和6年度以降にも引き継がれる課題】 ①国指定史跡唐沢山城跡の適切な保存・整備・活用 ②唐沢山城跡ガイダンス施設(ビジターセンター)の設置計画の策定 ③発掘調査や整備状況の情報発信 ④郷土博物館、葛生化石館、葛生伝承館の入館者数の増加 ⑤佐野市域の文化遺産を総合的に保存活用していくための「(仮称)佐野市歴史文化基本構想」の策定 ⑥天明鋳物生産用具の保管・展示・活用計画の検討 ⑦市域全体の遺跡地図の作成 【令和6年度重点課題】 ⑧二の丸石垣整備(修理)基本計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ①唐沢山城跡の保存・整備・活用は、平成30年に策定した唐沢山城整備基本設計に基づき推進する。石垣整備には、担当者に専門的な知識が要求されるとともに土木技師の関与が不可欠であるため、史跡整備体制の整備を図る。 ②ガイダンス施設は、関係部署と調整を図りながら検討を進める。 ③発掘調査や整備状況の発信については、デジタル技術の活用を図りつつ、唐沢山のレストハウスや郷土博物館などでお知らせする。 ④郷土博物館等の入館者増に向けては、企画展や講座の開設に際して市民ニーズの把握と魅力的テーマを掛け、話題性のある事業を企画し広くPRする。また、郷土の歴史・文化資源に対する理解を促進してもらうために学校利用による体験学習を継続する。 ⑤「(仮称)佐野市歴史文化基本構想」の策定は、計画的な作業の開始に向けて検討を進める。 ⑥天明鋳物生産用具の保管等については、必要となる保管場所(収蔵庫)の規模、機能等を検討し、閉校等の公共施設改修等を想定したシミュレーションを行う。 ⑦遺跡地図の作成は旧田沼・旧葛生町域の詳細な分布調査を進める。 ⑧二の丸の石垣整備については、史跡唐沢山城跡保存整備調査指導委員会の指導・助言を仰ぎ、二の丸の石垣カルテを作成し、地盤調査も行って、計画を策定する。